

大雨による災害から 命を守るために！



平成31年2月12日、13日 in 平成30年度学校安全指導者講習会

 **気象庁 広島地方気象台**
Japan Meteorological Agency Hiroshima Local Meteorological Office

大雨の回数は増えている



非常に激しい雨
(1時間に50ミリ以上
80ミリ未満)

- 滝のように降る！
(ゴーゴーと降り続く)



猛烈な雨
(1時間に80ミリ以上)

- 息苦しくなるような圧迫感がある！
- 恐怖を感じる！



平成11年（1999年）6月29日豪雨災害



死者 32名



(出典:広島県防災Web)



2011年以降この8年間の主な豪雨

～主に「台風」による原因によるものを除く～

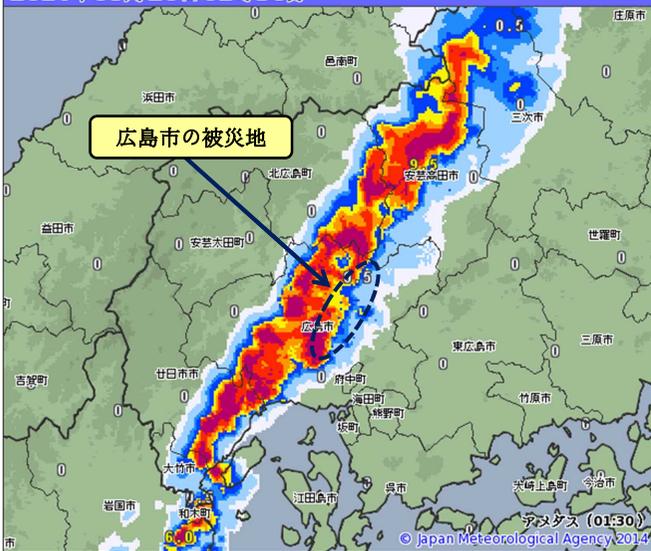
- 2011年「平成23年新潟・福島豪雨」
- 2012年「平成24年九州北部豪雨」
- 2014年「平成26年8月豪雨」
- 2015年「平成27年9月関東・東北豪雨」
- 2017年「平成29年7月九州北部豪雨」
- 2018年「平成30年7月豪雨」



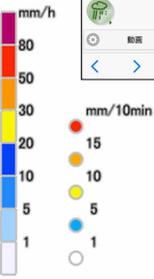
平成26年8月豪雨「雨雲の動き」

☆刻々と近づいてくる雨雲の様子と1時間先までの予想がわかります。

2014年08月20日01時30分



スマートフォン版もあります!!



2014年8月20日01時30分～04時30分

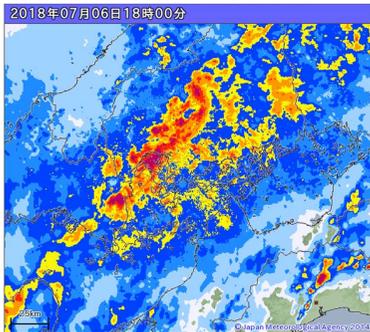
平成26年8月豪雨災害

死者 77名

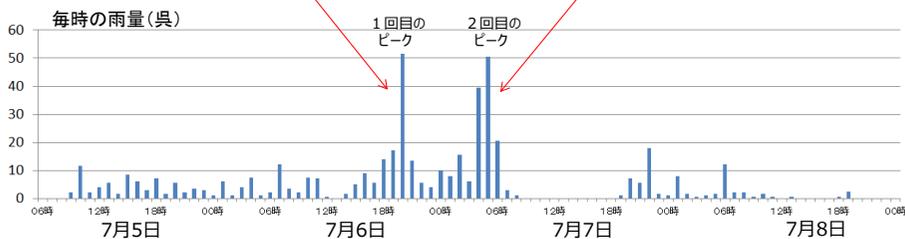
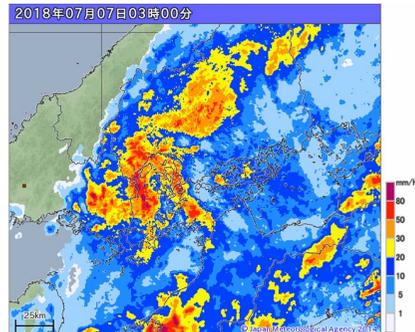


平成30年7月豪雨「雨雲の動き」

7月6日夜のはじめ頃



7月7日明け方



平成30年7月豪雨災害

広島県：死者120名、行方不明5名



災害が発生し被災した時に、
必ず聞く言葉

まさか！



いざ！大雨！使って欲しい気象情報

国土交通省 気象庁
スマートフォン版もあります!!

雨雲の動き
高精度降水ナウキャスト

危険度分布

気象庁ホームページ (トップページ)

「平成30年7月豪雨」において、
家族共々命の助かった方の行動



気象庁ワークショップ
「経験したことがない大雨 その時どうする？」
ある受講者の備え、当日の行動

気象庁ワークショップ「経験したことがない大雨
その時どうする？」とは・・・



レクチャー（わかりやすいお話し）



住んでいる所に大雨が降ってくる！
いつ！どのような行動をするのか？
グループで話しあい



気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」とは・・・



話し合いの結果を発表

災害への心構え

災害は「まさか」ではなく
「いつか」起きるものと認識せよ！

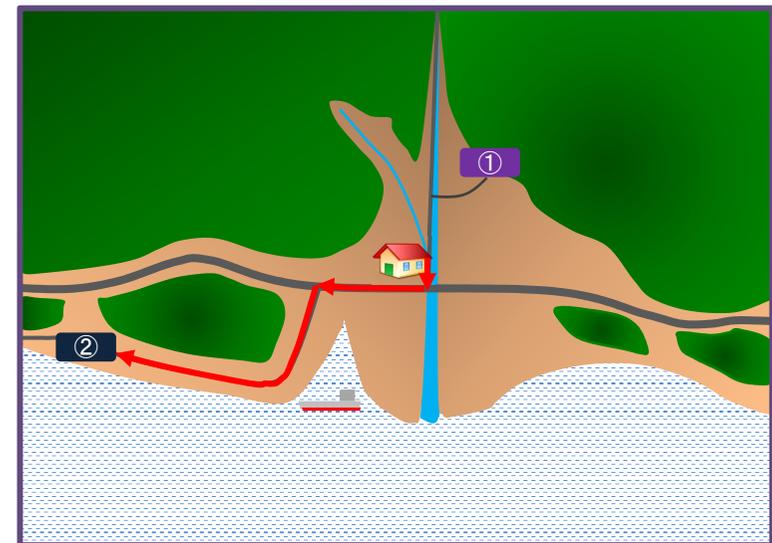
「自分は大丈夫」とは思わない！

気象庁ワークショップ受講後の備え ～家族で話し合ったこと～

- ・ 家屋は木造平屋建てなので、垂直避難（2階に上がるなど）はできないこと。
- ・ 土砂災害警戒区域内（イエローゾーン）である。
- ・ 自宅の裏には、中小河川が流れており、大雨発生時は氾濫の危険がある。
- ・ 以上から、（水平屋外）避難場所を次のとおり決めた。
 - 津波発生時は、山手の高台
 - 大雨（河川氾濫、土石流）発生時は、居住地区に対して直角方向かつ崖からある程度離れている海岸



お住まいの場所と豪雨災害時の避難経路



自宅

② 大雨発生時に避難場所と決めた場所

① 津波発生時に避難場所と決めた場所

被災状況 平成30年7月7日撮影（4枚とも同時刻）



土砂に埋まった自宅の様子



自宅の前の道路の様子



土砂に埋まった自宅内の様子



自宅裏の川が氾濫している様子

感じたこと

- 実際に自宅が被災して強く感じたことは、**「避難行動を実行する」事の難しさ**です。**「避難」について事前に考える事・知る事の大切さを改めて感じました。****「自宅が壊れた事」よりも「怖い想いをせずに済む事」（命が助かった事）の方が重要なんだと実感しています。**
- 気象庁ワークショップを受講しておいて良かった点は、次のとおりです。
 - ① 気象庁が発表する警報などをはじめとする防災気象情報の内容や活用の仕方が分かるようになっていたこと。
 - ② 地域の災害リスクを確認し、家族で避難方法などを話し合うきっかけになったこと。

気象庁ワークショップを参考にした 平成30年12月13日 広島市立深川小学校 防災授業



お問い合わせ先



気象情報官

〒730-0012 広島市中区上八丁掘6番一30号 広島合同庁舎第4号館
代表Tel 082-223-3950（ダイヤルイン）

なんなりとお申し付けください。



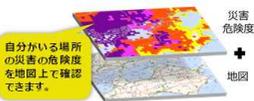
気象庁マスコットキャラクター「はれるん」

以下 参考

説明で割愛したスライド

いざ！大雨！使って欲しい気象情報 危険度分布とは？

雨による災害の危険度を地図上にリアルタイム表示



- 土砂災害警戒判定メッシュ情報 (大雨警報(土砂災害)の危険度分布)
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布

- 危険度を5段階に色分けして表示
- 極めて危険 ← 重大な災害がすでに発生しているおそれ
 - 非常に危険 ← 重大な災害が数時間以内
 - 警戒
 - 注意
 - 低
 - 今後の情報等に留意

危険度分布



身に着ける災害を一目で確認

自ら情報を得ることが大切なひとを守る第一歩
身に着ける危険に気付けるのはほかにないあなたです
気象予報士/井田寛子



気象庁
〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
電話：03-3212-8341
FAX：03-6689-2917 (県の自由な方向へ)

平成30年8月

危険度分布



身に着ける災害を一目で確認

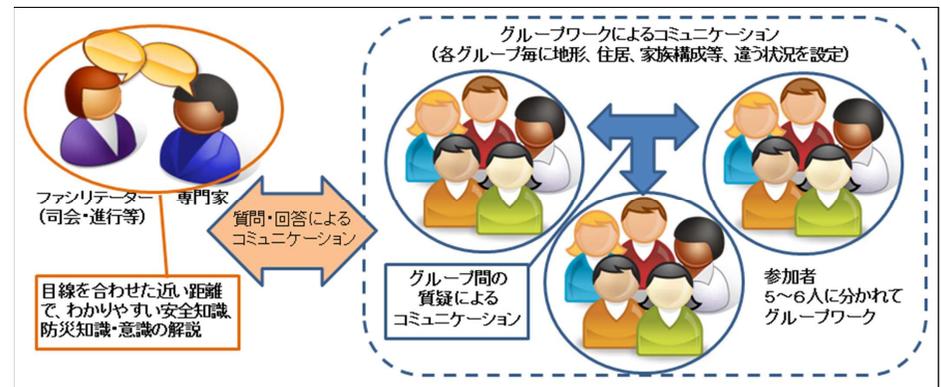
この雨大丈夫？ そんな時は気象庁ホームページで確認

危険度分布 検索



気象庁

気象庁ワークショップ 「経験したことのない大雨 その時どうする？」 とは・・・



詳しくは・・・

気象庁ワークショップ

ホーム > 知識・解説 >

気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」

「平成30年7月豪雨」災害で、 家族共々助かった方のプロフィール

- 広島県在住。
- 妻、子ども1人の3人暮らし



- 家屋は、木造平屋建て



- 平成27年5月（平成26年8月20日広島豪雨災害の約9カ月後）、子どもとともに、気象庁ワークショップを受講。

気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」で学ぶこと

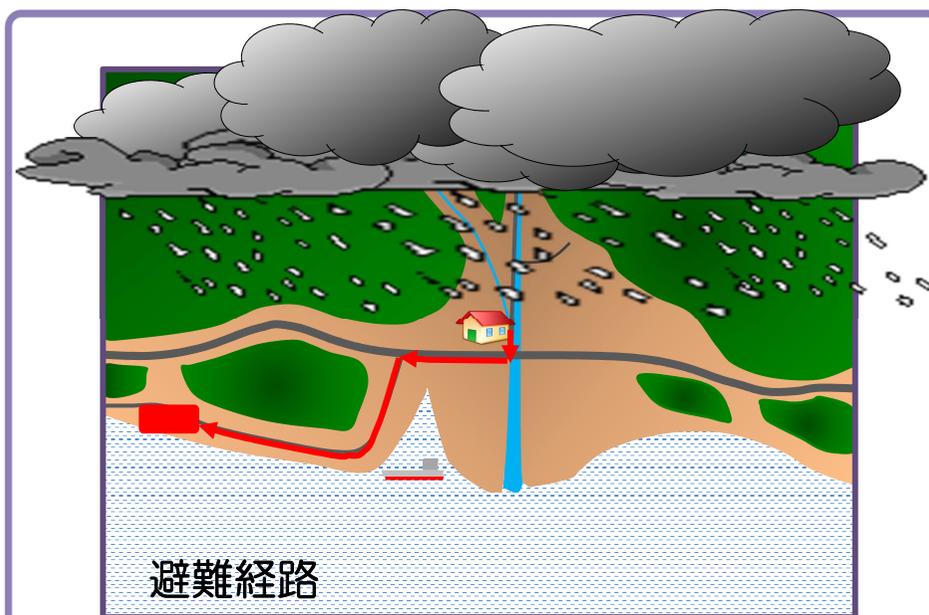
大雨災害から身を守るためには…？

- 1 住んでいる場所などで
どのような災害が起こる
のか？！知っておく
- 2 災害から身を守るための
知識を持つ

避難に至る経緯、避難行動

平成30年7月6日（金）

- 被災当日朝出勤前、雨の降り方の感覚：天気予報どおり、前日（5日）から断続的にやや強い雨になりながら、長く降り続けているな！
- 17時過ぎ 九州北部（福岡県、佐賀県、長崎県）に大雨特別警報発表（17時10分発表）を、携帯端末（スマートフォン）で確認。
- 18時30分頃 携帯端末（スマートフォン）から気象庁ホームページで、雨雲の動き（高解像度ナウキャスト）、降水短時間降水予報をチェック。
- 19時頃 自宅の裏を流れる川の増水を確認。また、岩が流れてきていると思われる、川底からのガーン・ゴロゴロという音を聞いた。
- この異常な状況と気象予測から、川が氾濫し、土石流の発生のおそれがあり、家屋に留まっては危険である！と認識。
- 直ちに、予め決めていた大雨発生時に避難する場所に向けて、自家用車（アンダーパスなど途中危険がないルート。車を利用したのは、一夜を明かすため。）にて、家族3人で水平避難開始。（距離にして約1 km）
- 19時30分頃 避難すると決めていた場所に到着。
- 19時40分過ぎ 広島県に大雨特別警報発表（19時40分発表）を、携帯端末（スマートフォン）で確認。
- 20時過ぎ 自宅が被災したと思われる。（根拠：20時01分 自宅のインターネットが途切れる。20時から20時30分頃 辺り一面、火薬を燃やしたような異臭を感じた。）



自宅



避難経路

避難した場所